

巻頭言

高良 和武

日本放射光学会会長

日本放射光学会が誕生してから、一年になろうとしています。会員の皆さんの御支援のもとで、幹事、委員その他、関係者の皆さんの熱意と努力により、学会誌を始めとして、いろいろな活動が活発に行われ、学会設立の目的が実現されつつあることは、誠に喜ばしいことで、感謝に堪えません。この4月からは新しい会長、佐々木泰三氏をお迎えして、一層の発展を期待しております。

この一年間に、放射光学会に関係のある出来事が幾つもありました。その中から二、三をあげますと、まず第3回放射光技術装置国際会議(SRI-88)が高エネルギー物理学研究所放射光実験施設がホストとなり筑波の工業技術院で開かれたことであります。前回の会議にくらべ、2倍の規模となり、海外からの参加者も予想の倍近くになり、盛会裡に終わりました。千川施設長始め関係者のご苦勞に改めて感謝します。海外からの研究者たちは、日本における放射光学の隆盛に感嘆し羨望の念をもって帰って行きました。そのときの感想の幾つかが学会誌に寄せられたことは、ご存じの通りです。日本の研究者および、それを支援した関係者の皆さんの努力の成果であり、心から敬意を表します。この会議では、加速器を含む装置技術の進歩のほかに、それによって可能になった新しい研究の手法の報告もあり、会議の規模と性格が一段と大きくなったことを感じさせられました。これらの装置技術、研究手法の進歩に続くいて、新しい研究分野が発展することが期待されますが、これらの研究成果も含めた会議を、近い将来、開くことになったら、どのような規模になるだろうと、海外からの友人との間で話題になりました。この会議の機会を利用して研究者の皆さんが、いろいろな形で討論の場をもたれ、友情を深めておられるのをみて、国際的な放射光コミュニティが大きく育ちつつあることを実感できたことは、嬉しいことでした。

産業用リングについては、NTTの超電導リングが動きだし、さらに春から秋にかけて、いくつか動き始めることが期待されます。また科学技術庁の大型放射光施設の研究開発、

建設準備の体制も整えられつつあります。

また中国では北京と合肥の二つのリングが、間もなく運転を開始し、台湾でも建設を開始しました。韓国でも2~2.5GeVのリングの建設計画が進んでいます。1990年代の後半には、これらが一斉に動きだし、東アジアは地球上で放射光学の最も盛んな地域となるでしょう。21世紀を担うこれらの諸国が、科学技術のナショナル・プロジェクトとして放射光施設を取上げたことは、究めて意義深いことと思います。

最近、新聞で放射光関係の記事をよく見かけますが、夢の光—放射光と書いてある場合が多いのに気がきました。研究者は放射光の夢を追って、頑張ってきましたが、その夢はますます大きくなっています。そして今や社会の広い層が放射光の夢に共鳴し、その実現を待ち望んでいます。

放射光学は、いろいろな研究分野が関係していることはいまでもありませんが、さらに大学、官庁、民間企業などいろいろな組織も関係し、また最近ではテクノポリスの中核に放射光施設を据え、地域の自治体、大学、企業が一带となって参加しようという動きもあります。また国際協力も大きな問題になってきています。

放射光学は単に学際的な学問にとどまらず、異組織、異文化の大きな集まりとなりました。いろいろな分野、組織、の多数の研究者が、文字通り一つの施設に集まり共同で作業し、一つの装置を共同利用することが普通です。このような共同、協力の作業は、プロジェクトの立案、施設、装置の開発研究、設計、建設から定常運転のすべての段階を通じて行われます。異なる組織、文化が集まることによって、おたがいに刺激、啓発を受け、新しいアイデア、新しい文化が生まれることが期待されます。一方、同床異夢という言葉もあります。放射光にかける夢は、人により、分野あるいは組織により異なります。話し合い、コミュニケーションが不可欠です。その際、とくに留意すべきことは、異なった組織文化では、言葉も論理も気質も異なるということです。作る人と使う人という立場の違いも十分に考慮すべきです。最近では研究者の論理と企業の論理との違いが、国内のみならず国際的にも混乱や摩擦の原因ではないわけかと思われる場合もあります。研究者の論理と官僚の論理との違いが事情を複雑にしていることがあるようにも見うけます。同質社会の以心伝心のやりかたは通じません。排他的な村意識、縄張り根性も排除されるべきです。表面的な情報交換にとどまらず、お互いの中での率直な意見の交換、建設的な批判、討論が不可欠だと思います。

放射光学会誌には、それぞれの施設の紹介、いろいろな分野のトピックスの解説、さらに異なった世代の研究者たちの座談会の記事など掲載され、会員間のコミュニケーションが始まったことは大変喜ばしいことです。また間もなく、放射光学会も開かれますが、そこでは、多くの夢が語られ、自由な討論が期待されています。今後、さらにいろいろな

ワークショップなどが開かれて、専門的なレベルで徹底した討論が行われることが望まれます。

それぞれの夢が、話し合うことによって、より大きな、より確かなものになって、実現することを期待します。

これまで、放射光のコミュニティは、国内でも国際的にも、同志的な協力とフェアプレーによる競争で、大きな友情と強い信頼を育ててきました。この貴重な伝統を守り、さらに発展させて下さることを願ってやみません。

